

第3回住民会議 議事要旨

平成20年(2008年)6月28日

滋賀県流域治水政策室

滋賀県流域治水検討委員会 第3回住民会議

議 事 要 旨

■日時：平成20年6月1日(日) 14:00～17:00

■会場：竜王町防災センター2F 大会議室

■出席者：36名(傍聴者含む)

委 員 石津文雄、大橋正光、北井香、柴田善秀、杉本良作、中井正子(欠席)、

(敬称略) 中村誠伺、成宮純一、齒黒恵子、松尾則長

アドバイザー 多々納裕一(京都大学防災研究所教授)

竜王町長 山口喜代治

事務局 県土木交通部技監、流域治水政策室、河港課

■議事

1. 開会
2. 現地視察について
3. ワークショップ
 - ・ 第2回の意見整理
 - ・ 地域防災力向上のためのメニュー、処方箋の抽出
 - ・ グループ別発表
4. 一般傍聴者からのご意見
5. 閉会



■議事要旨

1. 開会

大橋座長の進行により開会し、山口竜王町長より歓迎のあいさつがありました。



2. 現地視察について

午前中に実施した日野川流域の現地視察を通じて感じたことを、各委員より発表していただきました。



【柴田委員】

- ・ 地域により、水害に対する取組が大きく異なることにおどろいた。古くからある集落は水害を想定したつくりとなっているが、新興住宅地は水害が起きる危険性を想定していないのではないか。住民の意識を喚起するための情報提供や取組が必要と思う。



【中村委員】

- ・ 水害の危険性が高い地域での開発規制は出来ないだろうか。



【北井委員】

- ・ 地域独自の情報の世代間伝承が出来ていない。地域に住む人全体が情報を共有できる方法を考えていきたい。



【松尾委員】

- ・ 水防活動が盛んな地域での、今後の次世代への引継ぎが興味深い。



【杉本委員】

- ・ 河川改修は必要であり、適正な予算措置をしていただきたい。



【齒黒委員】

- ・ 天井川と共に生きてきた地域の知恵を、子供たちへ伝えて欲しい。
- ・ 地域の意見を取り入れた川づくりがされていることが分かり安心した。



【成宮委員】

- ・ 地域の中のコミュニケーションがとられた地域活動は、減災に貢献すると思う。



【石津委員】

- ・ 水害の被災実績のある地域と、新興住宅地の様な無い地域とでは取組みが異なっている。先人の知恵がスムーズに伝わっていない点が問題である。



【大橋座長】

- ・ 旧村と新しい地区との災害に対する温度差は課題である。
- ・ 川と人とを近づける環境づくりが必要である。
- ・ 最後の大きな水害からかなりの年数が経っており、新しい地域および、若い世代への水害の恐ろしさとそれに対する知恵とを伝承していかなければならない。

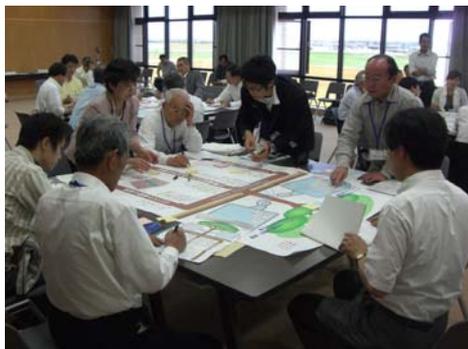
3. ワークショップ

(1)第2回の意見整理

- ・ 事務局より、第2回住民会議で出された意見の整理結果について説明がありました。

(2)地域防災力向上のためのメニュー、処方箋の抽出

- ・ 事務局より、ワークショップの進め方について説明があった後、一般傍聴の方、行政職員も交えて3つのグループに分かれてワークショップを行いました。
- ・ 「地域防災力を向上させる方策（メニュー）」および「メニューを定着・維持・発展させるための処方箋」を個々にふせんに書き込み、グループ内で協議しながら、まとめ図を作成していきました。



(3)グループ別発表

- ・ 各グループで作成したメニューと処方箋のまとめ図について、主な意見や内容などをグループ代表より発表していただきました。



「キャッチフレーズが必要」



「地域の情報共有・伝達による地域防災力を考えた」



「防災訓練方法の改良が必要」

(4)まとめ

- ・ 本日の討議を受け、今後本会議が県民にむけて発するメッセージをどうすべきかについて、多々納アドバイザーよりご助言をいただきました。



【多々納アドバイザー】

- ・ 討議を通じて特色的または大切と思われることが3つある。

① 水害に対応してきた文化・知恵

今まであった文化や知恵といったものを、どういう風に現代の治水あるいは社会の仕組みの中で活かしていくか意見をいただいた。その中で目玉になるようなものを幾つかフォーカスすることが大事である。

② 「面白い」と思う仕組みづくり

「防災」と言わない防災の話や、地域の行事に災害のこともやってみるといった、体の中にスーッと入ってくるような、楽しむ仕組みについての意見が出ている。

③ 勤め人が多いという地域の特色をどう活かすか

企業との協定や具体的なアクションが必要との意見が出ている。

- ・ アイデアはたくさんでているが、アクションプランをつくる必要がある。
- ・ 地域の方の活動に対するアドバイスやお手伝い等ができるサポートの仕組みが必要との意見が共通に出ている。
- ・ 「災害文化」、「楽しむ仕組み」、「地域の特色」や「人」、「情報」、「知恵」といったものなどにフォーカスを当てて、特色のある地域の防災力を作るアクションプランとなればよい。
- ・ キャッチフレーズを考えたほうがよい。



【大橋座長】

- ・ 本日は「自助・共助」の部分の意見が多く出た。次回委員会では、「公助」に関しても議論をしていきたい。

4. 一般傍聴者からのご意見

一般傍聴の方からご意見をいただきました。主なご意見は、以下の通りです。

【一般傍聴男性】

- ・ 方策だけでなく、何故そう思ったのか、そう思うに至った経緯は何かという点もまとめていただきたい。

【一般傍聴男性】

- ・ 流域内の水害の危険性がある箇所を認識し、水害に対する行動を考えるワークショップとして「DIG」というやり方がある。
- ・ 行政の方はワークショップでもっと情報を提供して欲しかった。

【途中退席された方の意見（事務局が代読）】

- ・ 災害で派生する二次被害をいかに防ぐかが当会議のテーマだと考える。当会議でまとめられたシステムを全県下に活かすように配慮いただきたい。

4. 閉会

滋賀県土木交通部技監から閉会のあいさつがありました。また、事務局より、次回会議の案内（6月28日・大津市ふれあいプラザにて開催）がありました。

以上

※議事要旨は主な議事の内容を迅速にお知らせするために庶務（滋賀県流域治水政策室）で取りまとめているものです。
詳細な議事内容については、議事録を会議後1か月程度で公表する予定です。